

カトリック 高松教区報

2007年3月4日(第116号)
 発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
 〒760-0074 高松市桜町1-8-9
 TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
 Email
 教区:tkcuria@mxi.netwave.or.jp
 広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
 生涯養成:yosei@takamatsu.catholic.ne.jp
 http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



殉教者を想い、ともに祈る週間にゆずせて

高松教区長 溝部 脩

日本司教団が、ペトロカサ
 岐部と一八七殉教者の列福
 を申請してはや二〇数年がた
 ちました。今年は、いよいよ
 大詰めの段階にきてお
 ります。私は、運動の
 当初からこれにかかわっ
 てきましたので、今は
 とても喜んでいます。
 列福にあわせて今年
 は殉教者週間を持つこと
 を司教団が決めました。
 その意図は、殉教を単
 なる過去の出来事にす
 るのではなく、現在に
 生きる私たちへの問い
 かけとして考えるため
 です。昔あったことを
 知るといふことより、
 昔あったことを通して、
 現在に生きる私たちへ
 のメッセージとして受
 け止めるためです。週
 間にあわせてパンフレッ
 トが出版されています
 が、それを使って現在
 においてどのように信仰を
 生かすかを考える材料に
 して頂ければ幸いと存じま
 す。また週間が終わった後
 も、パンフレットを使っ
 て分かち合い、

殉教を過去の出来事にするのではなく、 現在に生きる私たちへの問いかけとするために



「ディオゴ結城了雪神父の殉教」
 講演にて
 (於:四国カトリック会館)

勉強会の材料にしていく
 ださることをお願いしま
 す。
 今回の殉教者は信徒を多
 く挙げています。信徒の時
 代といふことと合わせての
 殉教者の選定でした。キリ
 シタン時代はまさに信徒
 の時代を先駆けるもので
 した。自立した信徒が教
 会を賢明に運営して

いまいました。従って司祭
 とのかかわりについて多く
 を示唆してくれるのがキ
 リシタン時代です。また
 自立する信徒と連携して、
 司祭のあるべき姿をま
 ざまざと見せ付けるのが、
 今回選ばれた四人の司祭
 たちです。幸いに徳島出
 身の結城了雪神父が選ば
 れています。

四国に働く司祭たちの模範
 として、彼の生涯、特に殉
 教を学んでいただきたいもの
 です。同様に教会に奉仕した
 人として、広島で殉教した
 松山出身のヨアキム七右衛
 門がいます。教会に奉仕し、
 司祭の片腕となつた人を尊
 崇することを通して、四国
 における今からの教会のあ
 り方を模索したいものです。

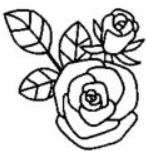
九月には教区挙げての行事
 として、結城神父についての
 シンポジウムを徳島で企画
 しています。教区全体でそれ
 を盛り上げていきましょう。
 また、列福式が行われる長
 崎巡礼にも積極的に参加する
 ことで、殉教者への尊崇を
 新たにいたしましょう。

主な記事

- 2面 殉教者を想い、ともに祈りま
 しょう
 司祭等の異動
- 3面 松田氏東京大神学校に合格！
 西川師終身助祭に！
- 4面 各委員会報告
- 5面 医療のともしび(2)
- 6面 各地区だより
- 7面 投稿コーナー
- 8面 訃報、お知らせコーナー

はばたき

挨拶をするだけで相手との
 距離は縮まる。会話をすること
 によって、もっとよい関係
 になる。一緒に飲食をすれば
 親密度はさらに増す。人間関
 係を深めたり、相手との絆を
 強くするには、この他に同じ
 目的に向かって共同作業をす
 る方法がある。▼ナイスが開
 催された頃、当教区は福音宣
 教精神に燃えていた。一緒に
 計画を立てたり、議論をした
 り、汗を流すことによって熱
 い連帯意識が満ちていた。教
 区内は明るく輝いていた。だ
 が、その後には思いも掛けない
 暗い時期が……。▼教区の混
 乱を打開する溝部司教様の基
 本姿勢は「対話」である。対
 話から生まれた方針が一致を
 もたらす。聖霊の光に照らさ
 れて、われわれはもつと力を
 合わせる方法を考えようでは
 ないか。目的に向かって、共
 に語り、心を一つにできる取
 り組みを……。▼風はまだ冷
 たいが、日はいつの間にか長
 く、日差しも確実に強くなっ
 ている。恵みの春はもうすぐ
 そばだ。そしていま、四旬節
 の真つ只中……。



殉教者を想い、ともに祈りましょう

殉教者の精神を生きる

生涯養成委員会 Srメリー・ギリスの元日の教区報に発表されたとおり、今年度の教区目標は「宣教」です。洗礼の恵みによって、「行って、宣べ伝えよ」という使命をいただいている私たちは、今年特に「社会の中で殉教者の精神を活かそう」という呼びかけもその目標の副題としていただいています。

二月四日から始まった「殉教者を想い、ともに祈る週間」を通して、日本全体の教会で「ペトロ岐部と一八七殉教者の列福」に向けて心一つにして、その大切な行事の準備に励んでいます。高松教区では、二月四日から一日までの祈りの他に予定している三つの行事があります。二月七日、その一つ目が行われました。

四国カトリック会館で、四国各地から約一五〇名の司祭、修道者、信徒が参加し、溝部司教による講演「ディオゴ結城了雪神父の殉教」を「回」にわたって（一四時の部と一九時の部）聴く機会に恵まれました。三〇年ぐらゐ前から日本一八八殉教者列福調査歴



講演会「ディオゴ結城了雪神父の殉教」14時の部、約100名の参加者の様子

史委員会」の委員、そして、その後「殉教者列福調査特別委員会」の担当司教として、ずっと研究なされた結果である底のない学識に基づいてのお話でした。今回の話を四国の殉教者、特にディオゴ結城了雪神父のことに絞った関係で、四国に住む私たちにとって、特に、興味深い話でした。また、その時代の危機的状況の中で、ずっと宣教活動が続けた神父たちと、いろいろな意味でその活動を支え、協力した信徒の姿を通して、教会の一人として、今どう生きたいのか教えられるお話でした。最後の最後まで洗礼の恵みを生き抜いた方々の強い信仰から、勇気と希望が自分の中で湧いてくることを感じた体験でした。

九月にまた教区をあげての行事を計画しています。二月九日、徳島地区のメンバーを入れて、一回目の実行委員会の会議を、結城神父の生まれ故郷阿南で行います。この行事を通して、できるだけ多くの方に殉教者の生き方に触れて頂きたいという思いで計画を進めていきます。皆様のお祈りとご協力を、心からお願ひ申し上げます。

興味深い話でした。また、その時代の危機的状況の中で、ずっと宣教活動が続けた神父たちと、いろいろな意味でその活動を支え、協力した信徒の姿を通して、教会の一人として、今どう生きたいのか教えられるお話でした。最後の最後まで洗礼の恵みを生き抜いた方々の強い信仰から、勇気と希望が自分の中で湧いてくることを感じた体験でした。

ペトロ・カスイ岐部神父ほか
187人の列福を求め祈る

いつくしみ深い神よ、
主の僕、ペトロ・カスイ岐部神父ほか187名は、
主キリストへの愛と同胞の救いのため、
いかなる苦しみや労苦にも屈せず
福音を伝え、ついに殉教の死を遂げられました。

かれらが晴き、
己が血でうるおした種に豊かな実りをお与えください。
また、御いつくしみによって私たちの祈り求める恵みをかなえ、
かれらを一日もはやく福者と仰げるようにしてください。

私たちも、殉教者の模範にならい、
不屈の精神をもって、忠実に主の道を歩み、
自分のすべてを神への奉仕と、同胞の救いのために
捧げることができるよう導いてください。

私たちの主イエス・キリストによって、
アーメン。

カトリック中央協議会
殉教者列福調査特別委員会

司祭等の異動

二月二五日、高松教区司祭の異動が発表されました。異動日は三月二五日付けで、その詳細は次のとおりです。

1 愛媛地区

① 松山・道後・郡中教会の協力司祭（二月一日付けで異動済み）
・モデラートル

・ホアン・マヌエル神父
・協力司祭司牧司祭
ルイス・グチエル神父
ハビエル・レチョン神父

2 香川地区

① 桜町教会担当司祭
（高松教区事務局長から）
浜口 末男神父

② 新居浜教会主任司祭
（桜町教会主任司祭から）
柘尾 泰英神父

③ 小豆島教会担当司祭・兼教区会計
濱口 秀昭神父

④ 高松教区事務局
① 本部事務局長（新助祭）
西川 康廣助祭

② 青少年委員会担当司祭（横浜サレジオ学院から）
佐藤 直樹神父

③ 修道女会
三月末日をもって高松教区から離れます。

④ オタワ愛徳修道女会（香川）
（高知）

⑤ 大阪聖ヨゼフ宣教修道女会（香川）
（高知）

⑥ オタワ愛徳修道女会（高知）

徳島教会松田栄作さん 東京大神学校に合格



石ころさえも

パウロ松田栄作

まず司祭職への召命という大きな恵みを頂いたことを、神様と司教様、そして召し出しをお祈りくださった皆様に感謝申し上げます。私の召命はWYDをきっかけとして始まりました。WYDケルン大会のテーマは「私たちはイエスを拝みに来たのです。・・・そして彼らは別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。」(マタイ2:13)です。何気なく読み飛ばしていたこの福音は、実は、各個人にとっては大きな変革を意味するものでした。星の導きによって真に人生を捧げるべきものに出会った人の人生を変えてしまう程のものでしたのです。この同じ生活を織り成していることでしょうか。しかし神の国を見つけた者にとって、それは可能性と希望に満ちあふれる世界です。すべての人の中に働きかけられる神を信じていることができるからです。そして、様々な問題が山積しているにもかかわらず、わくわくするような旅、つまり神の国を目指す別の道へといざ

なわれませう。「神はこんな石ころからでも、アブラハムの子を造り出すことがおできになる。」(マタイ3:9) 私は教会にとつてまさに石ころのような何の関わりもない者でした。紀元二千年大聖年直前のクリスマスにきっかけを得て教会と関わり始め、二年後洗礼を受けました。さらに二年後高松教区に溝部司教様が着座され、四国の青年たちの活動が活発になりました。WYDを中心とした青年の集いの中で、参加した若者たちが皆、確かな指導のもと、自分の召命について考える機会に恵まれたことと思います。その後も、教区の集いでの司教様のカテケージスを通して私の召命は深まって行きました。折しも徳島教会では、この頃からミサの共同祈願の中で敬虔な老婦人が召し出しのための祈りを毎週続け始め、徳島教会創立百周年の二〇〇六年に私は司祭召命への決意を固めました。私は公務員生活が長く三六歳でしたから、人生を一変するこの決断は大きな冒険と感ぜられました。そこで、司祭職への召命が本当に神からの呼び掛けであるのかどうか、又自分に務まるのだろうかかと自問する日々もありました。夢を見ました。「僕に務まるだろうか」とぼやいていると、多分マリア様が現れて「あなたはそれのために生きていますのだから」と言われました。以来、そうか、そのために生きればいんだと割り切り不安は消えました。また、祈りながら静かに過去を振り返ることによって、様々な偶然が重なり合っただけで運ばれて来たことと悟り、神の呼び掛けであることを確信しました。その頃、個人的な悩みも片端から片付いて行くという

思議な経験もありました。「山と丘は低くなれ。谷は平地になれ。険しい道は平坦に、狭い道は広くなれ。」(イザヤ40:4、バルク5:7) 補囚の民がエルサレムの栄光に再び招かれたときもこのような歓喜の体験をしたに違いないと思います。その歩みを振り返ったとき、弱い自分が神の手に包まれ、背中を押され、ぐいぐいと気持ちを引き寄せられていくような感じがして幸福感に包まれます。

東京カトリック神学院では、さらに召命を深めたいと思っています。平田院長は最初、私に「司祭職は神秘である」と言いました。各個人の召命は指導者にも掴みきれない所があるのだと。私はさらに神の招きを見出していく必要がありそうです。今のところは、社会に生きる人々と共に生き、光を放つことを使命として、秘跡を大切に執行する司祭になりたいと考えています。なぜなら、私はキリストの放つ光こそがこの世で一番大切なものだと思信しているからです。この光によって私は

救われました。初めて教会を訪れた頃、この世界や自分の存在をどう考えればよいのかとときりに模索していました。今の社会も光を求めて彷徨っています。絶望し、人生の意味が全く分からなくなってしまうている人が後を絶たない世の中です。今どうしても社会に対して光を放つことが必要なのです。そのために私は、天的な使命を意識して、この世の一般的なあり方とは少し異なるあり方ができるように成長したいとも思っています。

最後に、憐れみ深い神は苦しみの中から切望する祈りに特に答えて下さいます。そのような祈りが大きな力となります。どうかこれからも、教区司祭召し出しのために祈り続けて下さるようお願い致します。きっと神は石ころさえも司祭に変えて下さることでしょう。そして多くの体験を共にした青年のみんな、この道への召命を感じたのは私だけでしょうか？もし感じているのであれば勇気を出して共に飛び出そう！

高松教区に終身助祭誕生へ！

三月二一日(水)午前十一時より高松教区司教座聖堂(桜町教会)にて溝部脩司教司式のもと、終身助祭叙階式がおこなわれる。終身助祭の叙階を受けるのは、長らく伝道師として高松教区に奉仕してきたパウロ西川康廣師。



助祭は、洗礼式の執行、聖体の保管と授与、聖書の朗読と説教、信者の礼拝と祈りの司式、準秘跡の授与、葬儀と埋葬の司式などをおこなうことができ、教区としては、多くの教区民が叙階式に参加し、ともに祈り、喜び、祝うことを望んでいる。なお、祝賀会は、叙階式終了後、隣の四国カトリック会館において行う。

終身助祭叙階式実行委員会

委員会報告

女性連合が新たな出発

司祭評議会、宣教司牧評議会

二〇〇七年度の第一回司祭評議会及び宣教司牧評議会役員会が、それぞれ一月一六日と一月一九日に開催された。主な議事は次の通り。

1 一八八殉教者列福準備について

一八八殉教者列福年を有意義に過ごすために、①殉教者を想い、ともに祈る週間、②ディオゴ結城了雪神父を顕彰する集い、③列福式参加の三行事が組まれているが、殉教者について、信徒の間で、司祭の間でさえ温度差を感じる。まず、司祭自身が研修会を開いて(五月八〜九日)認識を深める。

列福式参加に関しては、各地区から担当者を選任し、担当者を中心に、各地区五〇名を目途に募集活動を開始する。

2 小教区評議会・地区宣教司牧評議会立ち上げについて

一年間をかけて小教区評議会規約を作成するが、単なる規約作成で済まずのではなく、協力宣教司牧態勢の中で、いかに「宣教する共同体」となるかを優先課題として取り組む。地区宣教司牧評議会は、教区宣教司牧評議会と連動させ、小教区と教区のパイプ役を果たす。愛媛地区規約をもとに作成した規約案を参考にし

て、実情に即した規約を作成し、地区宣教司牧評議会を立ち上げる。

3 教区女性連合再編について

教区の状態の変化に伴い、教区の中でよく奉仕してきた女性連合の再編に取り掛かる。一月一三日に第一回会合を開催し、上からの組織作りよりも、横のつながりを深めながら、緩やかに、徐々に形づくっていくという方法をとる。

4 教区宣教司牧評議会議長交代

教区宣教司牧評議会は発足して一年が経過した。これまで議長を務めて評議会をリードしてきた溝部司教は、ほぼ軌道に乗ってきたと判断し、信徒評議員に議長職を譲る。

「人権を考える」委員会

スタート

委員長 Srメリー・ギリス
一月一九日(金) 「人権を考える」委員会」の第一回目の会議が四国カトリック会館で行われました。委員は、岡淑子氏、高木マリトス氏、ネルソン神父、ブラッドリ神父、ウイリアム・マヘル神父、ロメオ神父とSrギリスの七名です。

二〇〇七年「『世界平和の日』教皇メッセージ」の条文を折って、会議を始めました。初回に当たって、溝部司教から委員会の発足目的について説明がありました。中央協議会の中で活動する「難民移住移動者委員会」、「カ

リタスジャパン」、「正義と平和協議会」、「部落問題委員会」の四つの委員会の内容を含む「人権を考える」委員会」のひとつとして中央との繋がりを持ちながら、高松教区で何ができるかを考えていくこと、外国人司牧、特に高松教区に多く住んでいるフィリピン人を中心とすることを目指して、研究期間を設けることを勧められました。

早速次回を研究日に設定し、「難民移住移動者委員会」担当司教さいたま教区の谷大二司教を講師として迎えることになりました。三月九日(金)一〇時から一六時の一日研修になります。

「平和旬間」の企画もこれから取り組みますが、まず教区内で毎年行われている平和のための行事を把握した上で、教区規模の行事を考えていくことになりそうです。

世界的に「人権」を脅かす状況が多い今日であるからこそ、この委員会の活動を識別しながら、進めたいと思っております。教皇ベネディクト十六世はメッセージの条文の中で次のように述べておられます。「私は今年の『世界平和の日』に皆様に考えていただきたいテーマとして、『平和の中心である人間の人格』を選びました。私は確信しています。人格の尊重が平和を促進することを。そして、平和の構築が真の意味での完全な人間主義の基盤となることを。こうして将来の世代のために未来を用意することができると。」と。メッセージの日本語訳は「カ

トリック中央協議会」ホームページの「教皇公文書」の中で記載されています。是非お読みくださいますようお願いいたします。

また会いましょう

教区の高校生諸君

青少年委員会

番町教会 三宅望

一月二〇日(土) から二一日(日) 桜町教会にて教区の高校生の集いが(高校生だけの集いとしては数年ぶりに)ありました。教区内より一〇名、サレジオ会より五名、計一五名の高校生の参加がありました。司教様・Br八木の話から始まり、食事作りやトランプ大会を通して普段の生活では過ごせない時を共に体験しました。久しぶりの再会、新たな出会いもありました。今回の集いで、自分自身、忘れていた大切な気持ちを集まった高校生に思い出させてもらった気がします。やっぱり良いものですね。こういう集いは！(今回の集いについては、後日更新される青少年宣教司牧のホームページをぜひご参照下さい。写真・感想等が見られます)最後になりましたが今回の高校生集いには多くの皆さんの協力がありました。いろいろな所での協力ありがとうございました。どうぞよろしくお願いいたします。またよろしくお願ひします。そして今回の参加者一人ひとりに「また、集いしましょう」「また会ってないみんなにも・・・」

各地区だより



愛媛地区三教会が合同開催、 みんなが一つになった

クリスマスミサ

千人以上が共に祝う

松山教会 尾崎寿一
愛媛地区の三教会（道後、郡中、松山）が、初めて取り組んだ合同クリスマス・イブ・ミサの様子を皆様にお伝えしたいと思います。

準備期間が三ヶ月という短い期間ではありましたが、何回か三教会が神父様・シスター方と合同で会合を重ね、一月二四日開始三〇分前の五時を迎ええました。

幼稚園、高校、大学、町内会などそれぞれ呼びかけをしているとは聞いていましたが、しらゆり館のフロアーや階段席は空席の方が多く何人集まってくれるか不安でした。

「なかなか人は来てくれないなあ。でも仕方ないか。初めてのことでもあるし来年に生かせばいいのだ」と半ば諦めかけていました。ところがどうでしょう。開始直前に

なると、まるで波が海岸に打ち寄せ、さらに後から後から人が押し寄せ、たちまちフロアーも階段席も一杯になりました。子供を含めると千人以上の参加者になったようです。

ミサの説教で、ルイス神父様は「それでいいんだよ、あなたはあなた、ただ生きているだけで素晴らしいのだから」と言われました。この言葉を聞いた時、こんな私をありのままに愛してくださる神様の限りない愛と慈しみを感じ、暖かくて幸せな気持ちになりました。神様は私に最高のクリスマスプレゼントをくださいました。

ミサ後のパーティでは、久しぶりに会った人と話が弾みました。その中には他の教会の信者さんも沢山いました。三教会が別々にクリスマスミサを祝っていたら実現出来なかった出会いでした。舞台では、高校生の劇や市民合唱団のコーラス、パフォーマンス、ボーイスカウトの手旗、手話の歌などが繰り広げられました。



ルイス神父説教にて満席の会場

この時、道後、松山、郡中教会の信徒、神父様、シスター方の力が一つになってクリスマスミサを創りあげたんだ、という実感と感動が沸きあがりました。その輪を取り囲むように、教会外の若者や高校生、幼稚園、中学、大学の父兄、市民がたくさん参加し、共に楽しむ祝う素晴らしいク

リスマスとなりました。教会だけで行われていたクリスマスミサが、外に向かって呼びかけたみんなのパワーで市民を巻き込んだのでした。

来年は、この喜びの輪がもっと広がり、大きくなることを願っています。献金は、フイリピンにあるマルチン病院と大村ホームの福祉施設に送られました。

未信者の若者に

クリスマスメッセージを伝える

ファン・マヌエル神父

二〇〇六年一月二四日のクリスマス・イブミサは大成功だったと言えるでしょう。

予想を超える数多くの人達が、聖カタリナ高校の白百合館に集まりました。イブ・ミサの目的の一つ、三つの教会の信徒会が力を合わせ、見事なイブ・ミサを成功させるために全員一致して努力し、それぞれの場で一人ひとりが一生懸命働きました。

その結果、もう一つの目的、未信者の人々への、特に若者達にクリスマスメッセージを伝えるという大切な目的は達成されていたと思われま

す。聖カタリナ高校生、教職員の方々、愛光学園の若い先生方、聖カタリナ大学の学生達、各幼稚園の教職員の方々、他多くの関係者各位が信者の人達と手を取り合っていてくれたことで成功に導くことができたのです。全てが終了するまでのそれぞれの顔は、喜びに満ち溢れていました。

この素晴らしきスタートは全ての始まりです。クリスマス・イブのミサだけではなく、全てのものを、今年、そして次の年へともっと素晴らしいものにするために、今後益々、宣教活動と若者に開かれた教会、生き活きとした明るい教会作りをモットーに努力していきたいと思

イエス三日目に復活し給う

鳴門教会 林 広

カトリック鳴門教会には一五枚（十字架の道行）の絵があります。この絵はオブレート会員であった（故）Br津田季穂が描いたものです。

津田氏は晩年、NHK「日曜美術館」に出演した際、「これからはイコンのような絵を描いてゆきたい」と語っていました。この「十字架の道行」はその頃のもの

です。鳴門にお越しの際は、この「十字架の道行」の前で黙想されると、至福の時が訪れるでしょう。巡礼、お待ち致しております。

（鳴門教会一同）



十五留イエス三日目に復活し給う

期待をこめて

徳島教会 高田英美

松田栄作さん
神学院ご入学おめでとう！
そしてありがとうございます！

吉報を聞いてすぐに電話をすると、「長年の私のあこがれが満たされ喜びにあふれています。教区のためにもがんばります」とはずんだ声が。

希望にあふれて司祭への道を歩み始めようとしておられる松田さんを教区民の一人として、徳島教会の一信徒として期待をこめてお送りしたいと思います。松田さんは徳島教会で洗礼を受け、真摯に神の国を求めてよく教えを学び、思慮深く祈りながら、ついに行くべき道を見いだされたのでしょうか。

司教様というよき指導者にも恵まれ、主の呼びかけに応えてよく決心してくださったと心から感謝しております。

これからはさらに困難が待ち受けていると思いますが、召命を確かめつつ一歩一歩あゆんでいってほしいと思います。そして、聖霊の賜に強められ、喜びをもって神と人とに仕える者となれますようにいつもお祈り致しております。

主がいつもあなたと共におられ、守り導いてくださいますように。

投稿コーナー

いじめの消しゴム・それは

徳島教会 友成ヤエ

去年は新聞・テレビで「いじめ」が大きく報道されて社会の目を集めた。しかし、いじめはいつの世にもあった。だがいえることは、その性質が陰惨になったということだ。

高度経済は、女性の社会進出を促し、女性の職場が拡大されるにつれ、いつも子どものそばにいた母親たちを家庭の外にひっぱり出した。この時から、家庭は少しずつ変わり始めた。収入は増え暮らしは豊かになった。

その代償として子どもがひとり取り残された。一人ぼっちのさみしさを一番知って欲しい母親は仕事に追われて気づいてくれない。家族みんなでかこんだ夕餉の食卓には、母親の温ったかい手作りの料理があった。

しかしそれに代わって並ぶインスタント食品やコンビニ弁当。話し相手もない食卓で、ひとりで食べる空しさ。テレビを相手にポツンと過ごす子どものやるせなさ。それでも母親に自分を認めてもらいたいばかりに、いい子であるうとやせ我慢する子ども。しかし、子どもにも限界が必ずくる。親と子の心の断層が褶曲を起こした時、子どもはキレル。

いじめは「心」から始まる。そこに「こ」とば「力」が加わり、「力」が加わり、それが

乗除して「死」に及ぶ。

子どもの「心」はどこで作られるのか。それは、子どもが育つ家庭のなかで培われる。だからこそのいじめをなくしたいなら、子どもにとって心地よい家庭を作ることである。子どもがいつも自分は両親に愛されていると感じることが出来る家庭である。どんなに勉強が出来なくても自分を愛してくれる親がいる。どんな時でも自分を愛してくれる家族がいる。それだけで子どもは生きられる。

そして、子どもはその家庭のなかで、両親の日常生活を通して、人間(ひと)が人間(にんげん)として生きていく上で必要な基調(もと)となるものを学んでいく。兄弟げんか・おやつを取りっこ・料理作り・お使い、そして病気やケガ、いろんなことを家族とのかかわりのなかで経験し、失敗をくり返しながらか、人生を生き抜く智慧をみがいていく。

それからもうひとつ、子どもにとって大切なこと。それは家庭での子どものしつけ。中途半端な対応をしないで、きちんと子どもと向き合うこと。その時、子どもは親の真剣さを見る。こうして子どもは家庭のしつけを通して社会の規範(ルール)を身につけていく。

と、いうことで、子どもをいじめから救う唯一の消しゴムは「子どもが育つ家庭のなか」にかくされていると、私は思う。

「子どもたちを大切にしないで。彼らはイエスとマリアの喜びなのです。」

ドン・ボスコ

みなさん、あしがら

徳島教会 小山 一

私は今年の六月に還暦を迎えました。中学三年の時に洗礼をうけ、はや四五年です。やはり、これまでの人生や今後のこと、どうしてもやらねばならぬことなど、半年余り折にふれて考えさせられました。そして、ほんとに心の底からの感謝で胸が一杯になります。これまで日本のあちこちでずっと教会生活を楽しんできました。カトリック新聞や「ひびき」などを読むと、教会の中でも色々といじめみたいなところがあるように書いてあり多分本当なのでしょうが、私に関して言えば神父さんや教会の皆さんに良く助けていただき「無我夢中だったけど、楽しかった」というのが素直な実感です。五人の子供を抱えていたので人並以上に皆さんに迷惑をかけ、実際に私の言動に傷ついた人も居られたから、先ず謝るべきだと思うけど、正直なところ、こうして迷惑をかけた人に対しても何より「ありがとう。おかげさまで！」とお礼の気持ちで先立ってしまう(ごめん!)。教会に、みなさんに、神さまに、心から感謝です。みなさん、ありがとうございます。



聖下ミニコ修道会ロザリオ管区

ヘスス・メリノ・テヘドール神父

二〇〇七年一月二二日、全身に転移した癌の為に松山市の愛媛県立中央病院において帰天(享年七六歳)



メリノ神父は簡潔、快活かつ奉仕の精神に満ちた修道者でした。いろいろな歴史的の小話で会話を楽しいものにし、又、使徒的活動の中で貧しい人々や援助を求める人々への奉仕を大切にしました。

松山にある聖ヨゼフ修道院で生涯の終わりの四年間を過ごしました。それは長い、そして病苦に耐える日々でした。激痛を伴う病を神のみ旨として受入れ、忍耐する精神を私達に模範として残しました。

訃報

聖下ミニコ宣教師女会

ソール・マリア・ローザ上妻久恵

二〇〇七年一月二六日帰天(享年一〇二歳)



彼女は戦中・戦後の多難な社会情勢の中、強い信仰によって苦難に打ち勝ち、一九四二年(一九九〇年)までの長期間カタリナ女子大学等においてカトリック精神による女子教育に献身されました。

祈りの人であり、その単純・謙虚・愛徳は多くの人に愛され、そして多くの人を信仰に導かれました。

いつもと変わらず夕食を済ませた後「ありがとう」を最後に一時五分安らかにその生涯を閉じられました。

【受賞歴】

藍綬褒章。勲三等瑞宝章。愛媛県教育文化賞。

お知らせコーナー

テゼの祈りの集い 子ども&高校生の集い

- ★テゼの祈りの集い
 - テゼ共同体Br.ギランと共に—
 - 3/22(木)夜-23(金)午後
 - カトリック桜町教会(高松)
 - 3/23(金)夜-24(土)午後
 - カトリック江ノ口教会(高知)

- ★子ども&高校生の集い
 - 4/28(土) - 29(日)
 - 高知県芸西村憩ヶ丘運動公園

両集いの詳細は後日お知らせします。



投稿記事募集

【テーマ】

いじめなど少年を取りまく事件・事故

【投稿要領】

字数は300字以内(写真歓迎)
「所属教会名、住所、氏名」明記のこと。
中傷・誹謗はご遠慮下さい。
原稿はできるだけメールで送って下さい。
写真もデジカメで撮影したものはメールで送って下さい。

【投稿先】

メール: tk-koho@mxi.netwave.or.jp
郵便: 〒760-0074
高松市桜町1丁目8-9
カトリック高松教区広報担当
TEL: 087-831-6659
FAX: 087-833-1484



主な司教日程

- 3月1日(木) ~ 4日(日)
 - FABC教育部委員会(タイ)
 - 大阪管区司教の集まり
- 5日(月) 司祭評議会
- 6日(火) 人権を考える会
- 9日(金) カタリナ大学卒業式
- 10日(土) ~ 16日(金)
 - 長崎浦上教会黙想会指導
- 18日(日) 鳥取教会
- 18日(日) ~ 20日(火)
 - 西川康廣、松田栄作両氏と共なる黙想(香川)
- 21日(水) 西川氏助祭叙階式(桜町)

- 22日(木) ~ 23日(金)
 - テゼの祈り集い(桜町・中島町)
- 25日(日) 碑文谷教会黙想会指導(東京)
- 26日(月) 選任式(国際宣教神学院)
- 28日(水) 四国幼稚園連盟総会(桜町)
- 4月4日(水) 聖香油ミサ(桜町)
- 5日(木) ~ 7日(土)
 - 聖週間(桜町)
 - 復活祭(桜町)
- 8日(日) 常任司教委員会(東京)
- 12日(木) ボーイスカウト総会(坂出)
- 15日(日) ~ 22日(日)
 - 加賀山みや記念祭(熊本)
- 27日(金) 大阪管区集い
- 28日(土) ~ 29日(日)
 - こどもの集い(高知)

編集後記

◆二月四日から一日までの一週間「殉教者を想い、ともに祈る週間」でした。二月七日には、司教様の講話もありました。今年、殉教者列福年です。殉教者のことを学び分ち合い、祈り、お互いに殉教者の精神を身につけていきたいと思えます。

◆ローマの枢機卿会議において一八八人の殉教者の列福が満場一致で決まったと言う、日本のカトリック信者にとって、大変喜ばしいニュースが、溝部司教様のもとに届きました。

◆高松教区にとっても大きな喜びがありました。桜町教会の西川康廣伝道師が高松教区では初めて終身助祭に叙階されます。また、徳島教会の松田栄作さんが、今春、東京大神学校に入学生されることになりました。本当におめでとございます。頑張り下さい。

◆一月九日「人権を考える」委員会がスタートしました。高松教区で何ができるかを考えていくことになりました。

◆投稿記事がありました。これから次々出てくることを期待しています。

(和泉文男)